

環境教育実践研究センター 10年間の活動記録 (平成9年～19年に実施した国際シンポジウム関係)

国際環境教育シンポジウム

国際理解教育シンポジウム 2002 「環境学習のための学校教育支援」

International Symposium on Environmental Education 2002
“Supports for School Education on EE”

日本における環境教育実践の手法は、古来の日本人の自然観や公害経験などがありながら、文化の異なる西欧の教育手法をそのまま移入し定着させようとしていた感が強い。それぞれの国、地域の価値観に根ざした独自の教育実践が定着してこそ、グローバルな視点での環境教育実践が成功するはずである。そこで、外国における実践事例の研究を通して日本における環境教育実践の在り方を見直すために、シンポジウムを開催することとした。本シンポジウムでの成果は、学校教育における実践に反映できればと考えている。

開催期間 平成14年12月3日(火)～5日(木)

開催地及び主会場 仙台市 国際センター (仙台市青葉区)

内 容

本シンポジウムにおいては、学校における日本型の環境教育がどうあるべきかの検討を行う。まず外国でのそれぞれの文化に基づく教育実践事例を研究し、日本型環境教育がどうあるべきかについて考察し、学校のNGO、行政、大学等の研究機関など、学校を取り巻く機関の支援の可能性、学校からの要望を踏まえて、環境教育支援の在り方を検討する。

参加国

アメリカ、オーストラリア、タイ、ドイツ、中国、韓国、日本

参加者・会議形式

外国人招待講演者8名の他に、国内からも講演者を招く。これら講演の後、研究課題について、参加者の中からの代表約20名のラウンドテーブル討論による形式で研究会を進める。この討論者は、サブテーマ毎に交代で勤める。これ以外の参加する専門家約100名は質疑等論議に加わるものとし、一般者の来聴も可とする。

主催者 宮城教育大学

連携機関 日本環境教育学会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会

開催責任者 教育学部附属環境教育実践研究センター長・教授 見上一幸

シンポジウム事務局 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉
総務課総務係 電話 022-214-3305

第7回ユネスコ/日本 アジア・太平洋地域環境教育研究セミナー

2003年度ユネスコ/日本アジア・太平洋地域環境教育研究セミナー 実施要領

1. テーマ

持続可能な社会のための環境教育：学齢期の子供を支える環境教育の考え方と実践

2. 今回のセミナーの目的

持続可能な社会の実現は人類共通の緊急課題であり、その実現は多様で長期的な教育的取り組みをなくしてはありえない。このセミナーの目的は、環境教育分野の専門家による学校教育の支援、とくにその中でも重要で緊急を要する教師教育について、さまざまな実践例を持ち寄り、参加者の情報交流を促し、現状を把握し、DESD（持続可能な開発のための教育の10年）を踏まえて今後10年間の課題をアジア地域として明確にすることである。

3. 主催

日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学

4. 共催

気仙沼市

5. 期日 平成16年2月11日（水）～14日（土）

2月11日（水） 公開発表会：基調講演および外国における環境教育の現状報告等

2月12日（木） 大学の支援による学校の教育実践の視察と検討：気仙沼市立面瀬小学校の公開研究会に参加

2月13日（金） 専門家会議（市内のホテルを会場に、約60人程度）

2月14日（土） 専門家会議（市内のホテルを会場に、約60人程度）

6. 会場

気仙沼市内（気仙沼市中央公民館、面瀬小学校および気仙沼ホテル観洋）

7. 参加国

中国、インド、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、ニュージーランド、ネパール、アフガニスタン、バングラディシュ、カンボジア、ラオス、アメリカ、日本

8. 組織

統括責任者 学長（横須賀 薫）

ユネスコ APEID セミナー運営委員会

委員長 環境教育実践研究センター長（見上一幸）

委員（順不同）伊澤紘生、安江正治、鶴川義弘、斉藤千映美、
村松 隆、渡辺孝男、小金沢孝昭、川村寿朗、
平吹喜彦、西城 潔、岡 正明、平 真木夫、
伊藤芳春、小松尚哉、溝田浩二、佐藤義則、
総務課長（菅原秀倫）、会計課長（太田敏彦）、
教務課長（松本仁一）

学外委員 東京学芸大学（原子栄一郎）

オブザーバー 国際交流委員会委員（本郷隆盛）

運営委員会事務局

目々澤紀子、福井恵子、菅浪久美子
学内協力教官
佐藤雅子 教授 (附属幼稚園園長)
青木守弘 教授 (附属養護学校校長)
学外協力委員
佐藤真久 IGES
鈴木克徳 国連大学高等研究所

9. 特別協力

国連大学・IGES・気仙沼ユネスコ協会・気仙沼コンベンションビューロー協議会

10. 後援:

宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・朝日新聞仙台支局・毎日新聞仙台支局・河北新報社・NHK 仙台放送局・TBC 東北放送・仙台放送・(株) 宮城テレビ放送・気仙沼かほく・三陸新報社・気仙沼ケーブルネットワーク

11. 経費

外国人参加者の往復航空運賃、セミナー期間中の滞在費・宿泊費は、主催者の決定した金額を主催者が負担する。日本人の参加者については、国内移動旅費及び滞在費・宿泊費の一部を主催者が負担する。また、公開等に伴う経費の一部を気仙沼市が負担を検討中である。

第9回ユネスコ/日本 アジア・太平洋地域環境教育研究セミナー

1. 事業の概要

- (1) 主催 日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学
特別協力 社団法人 仙台ユネスコ協会
- (2) 期日 平成 17 年 11 月 22 日 (火)～25 日 (金)
- (3) 会場 ネ！ットU仙台市情報・産業プラザ (アエル内)・宮城教育大学・その他

(4) 事業の概要

持続可能な未来に向けた環境教育をテーマとして、環境教育分野の専門家により、学校教育の中で実践されている環境学習プログラムの内容について、各国の実践事例をもとに話し合い、持続可能な開発のための教育の 10 年を踏まえた取り組みのための課題と国際教育協力のあり方などについて明確かつ具体的にします。

(5) 参加国

中国、フィジー、インド、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、バングラディッシュ、カンボジア、アメリカ、日本

2. 事業内容の説明

(1) 事業の目的

持続可能な社会の実現は 21 世紀の人類の大きな課題であり、その実現のためには多様で長期的な教育の取り組みが必要である。2005 年は持続可能な開発のための教育の 10 年の開始年であり、各国が、これまでの経験を踏まえた幅広い視野で、地球環境保全に向けた活動を展開することが求められている。本セミナーでは、環境教育の計画・方法、実践、展望等の取り組みに不可欠な環境教育実践プログラムを取り上げ、各国の活用事例と実践上の諸課題について、共通理解認識のための議論を展開し、各国での今後の望ましい教育実践の進め方、課題解決に向けた教育協力のあり方を明確にすることを目的とする。

(2) 事業の内容について

本セミナーは「持続可能な未来に向けた環境教育 - 教師のための環境教育実践プログラム - 」をテーマとし、アジア・太平洋地域の環境教育の専門家を招聘し、持続可能な開発のための教育の 10 年を踏まえた環境教育の取り組みと国際教育協力の在り方について 4 日間にわたって議論する。初日は、仙台市内の小学校と仙台周辺の環境教育関連施設において、日本の環境教育の取り組みを視察する。2 日目は、小・中学校と宮城教育大学の教員及び NPO 環境教育関係者による現状と諸課題に関する話題提供を含め、ESD における望ましい教育の進め方と協力のあり方を討論する。3 日目は、一般公開のセミナーで、基調報告及び基調講演、引き続き各国の事例報告を実施し、参加者との意見交換を行う。4 日目の最終日は、国際環境教育実践校 (面瀬小学校) の公開研究会に参加し、海外との環境教育の連携や相互交流のあり方について討論する。

3. 日程 2005 年 11 月 22 日 (火)～ 25 日 (金)

11 月 21 日 (月)	外国人ゲスト仙台到着	仙台市内ホテル
11 月 22 日 (火)	<p>専門家会議 (日本の実践プログラムの現状視察)</p> <p>9:30～11:30 宮城教育大学附属小学校 11:30～14:40 名取市いぐね (屋敷林) 見学 館の家 (いぐね) で昼食 14:40～17:00 仙台市科学館 ～18:00 宿舎へ</p>	仙台市内ホテル

11月23日(水) 祝日	<p>専門家会議(実践例の報告ならびに討論)</p> <p>会場:宮城教育大学会議室</p> <p>9:00~9:10 開会挨拶</p> <p>9:10~9:40 講演(ACCU)</p> <p>9:40~11:00 参加者紹介</p> <p>11:00~12:30 事例報告討論(大学の実践)</p> <p>昼食</p> <p>13:20~14:50 事例報告・討論 (小中学校の実践)</p> <p>休憩</p> <p>15:10~16:40 事例報告・討論(地域の実践)</p> <p>16:40~17:00 まとめ</p>	仙台市内ホテル
11月24日(木)	<p>公開発表会(基調講演・外国の実践報告)</p> <p>会場:仙台アエル</p> <p>9:30~9:50 開会の挨拶</p> <p>9:50~10:30 基調報告</p> <p>① 日本ユネスコ国内委員会事務局(文部科学省) 「持続可能な開発のための教育(ESD)について」</p> <p>② 文部科学省教育課程課長 常盤 豊氏 「環境教育の推進について」</p> <p>10:40~12:00 基調講演 Charles Hopkins 氏 「持続可能な未来のためのESDの役割」</p> <p>12:00~13:00 昼食</p> <p>13:00~15:00 国別実践報告5人</p> <p>15:00~15:20 休憩</p> <p>15:20~17:20 国別実践報告5人</p> <p>17:20~17:30 閉会の挨拶</p>	仙台市内ホテル
11月25日(金)	<p>気仙沼市立面瀬小学校公開研究会</p> <p>会場:気仙沼市立面瀬小学校</p> <p>7:00~10:00 仙台市から気仙沼市へ移動</p> <p>10:00~16:00 公開研究会へ参加</p>	気仙沼ホテル
11月26日(土)	<p>気仙沼市で現地解散</p> <p>① 一関ルート 一関から新幹線で東京へ移動</p> <p>② 仙台ルート 伊豆沼経由、昼食(サンクチャリー・センター) 仙台駅で解散、新幹線で東京へ移動</p>	

4. 事業実施体制

氏名	所属・職名	役割等
横須賀 薫	宮城教育大学 学長	統括責任者
村松 隆	環境教育実践研究センター長	運営委員長
見上 一幸	環境教育実践研究センター	運営委員
安江 正治	〃	
鶴川 義弘	〃	
斎藤 千映美	〃	
島野 智之	〃	
溝田 浩二	〃	
小金沢孝昭	社会科教育	
川村 寿郎	理科教育	
渡辺 孝男	家庭科教育	
西城 潔	社会科教育	
岡 正明	技術教育	
平 真木夫	学校教育	
狩野 秀明	宮城県教育研修センター	
菊地 秀敏	仙台市科学館	
大久保正二	宮城教育大学総務課長	
太田 敏彦	〃 財務課長	
松本 仁一	〃 就職・連携課長	
目々澤紀子	環境教育実践研究センター	
福井 恵子	〃	
菅浪久美子	宮城教育大学学務課	

えるふえシンポジウム

高度専門性と実践的指導力を持つ個性豊かな教員養成 —環境教育による教科横断型カリキュラム配信事業— 環境教育ライブラリー “えるふえ” シンポジウム

宮城教育大学では、平成 17 年度より、『高度専門性と実践的指導力を持つ個性豊かな教員養成～環境教育による教科横断型カリキュラム配信事業～』を実施しています。

本事業は、遠隔地もふくめた広域の学校へ、実践プログラム・教材・人的支援を提供できる総合支援システム「環境教育テクノコア（＝環境教育ライブラリー・えるふえ）」を創設し、環境教育に必要な基礎教材・資料を全国の環境教育指導者や学校に配信することを目的としています。

平成 19 年度は本事業の最終年度にあたり、今まで蓄積した資源を公開し、皆様と共有すべくシンポジウムを開催いたします。

日 時 平成 19 年 6 月 16 日（土曜日） 場 所 宮城教育大学 230 番教室

○ 主催者挨拶 13：00～13：10 宮城教育大学 学長 高橋 孝助

○ 基調講演 13：10～14：10

文部科学省 初等中等教育局教育課程担当リーダー

上月 正博 氏 「学習指導要領と環境教育」

環境省 総合環境政策局環境教育推進室長

北沢 克己 氏 「環境行政の動向と環境教育」

○ 活動報告 14：10～15：00

1. えるふえ概要（鶴川義弘）

2. ライブラリー（島野智之）

3. OPAC（鶴川義弘）

4. カリキュラム（斉藤千映美）

5. バタフライガーデン（溝田浩二）

○ 実践報告（評価委員からのコメントを含む） 15：00～16：00

教材ユーザ

・ GPS 携帯電話と Google 地図を使った環境教育

佐々木 哲弥 氏 宮城教育大学 特別支援教育特別専攻科

・ 総合的な学習の時間「動物とともに」

牛坂 路子 先生 多賀城市立多賀城東小学校

・ えるふえを活用した高等学校の総合的な学習における実践

千葉 美智雄 先生 宮城県仙台第三高等学校

・ 顕微鏡を使った田んぼの水生物調査

佐々木 勉 先生 栗原市立鶯沢中学

国際理解教育シンポジウム in Miyagi

国際理解教育シンポジウム in Miyagi ～持続可能な開発（未来/社会）のための教育（ESD）の普及と ユネスコ協同学校（ASP）ネットワークの拡充のために～

1. セミナーの目的

地球という掛け替えのない星に住む我々人類にとって、「持続可能な開発（未来/社会）のための教育」（ESD）は最も重要な現代的課題の一つです。“持続可能な開発（Sustainable Development）”を共通のテーマとして学校間で国際交流ができれば、相互の交流がより深まるだけでなく、ESDを進める上で大きな力となります。この度、「国際理解教育シンポジウム in Miyagi」を開催し、学校教育の中のESDについて最新の状況を共有して、共通言語としての英語への取組なども含め、国際理解教育の実践について学ぶ機会にしたいと考えております。

国際理解教育はユネスコの精神から生まれたといわれます。本シンポジウムでは、ユネスコ協同学校（ASP）で行われた国際理解教育の成功モデルを提示するとともに、宮城県地域の学校を中心にそれぞれの実践事例を発表、検証して教育方法の改善策を考えます。また、ASPネットワークの再構築と充実強化など新たな協同の可能性について専門家から意見を聞き、新たな道を拓きたいと思っております。

2. セミナーの日程・開催場所

会期：平成19年12月8日（土）・9日（日） 会場：宮城教育大学 講義棟

平成19年12月8日（土）

9：30～10：00 開会式（開催趣旨説明含む）【進行：藤田博】

主催者挨拶：宮城教育大学 学長 高橋 孝助・文部科学省 国際統括官 木曾 功

共催者挨拶：日本ユネスコ協会連盟 副会長 加藤 玲子

来賓紹介：仙台ユネスコ協会、各教育委員会、他列席者

10：00～12：15 セッション1 ESDとASPの現状と課題 【進行：村松 隆】

プレゼン1 ESDの現状と更なる推進のための我が国の取組（30分）

木曾 功 文部科学省国際統括官・日本ユネスコ国内委員会事務総長

プレゼン2 我が国の教育改革におけるESDの論点（30分）

田村 哲夫 日本ユネスコ国内委員会副会長

（中央教育審議会委員、日本私立中学高等学校連合会会長）

プレゼン3 我が国における国際理解教育とASPの現状と課題（30分）

多田 孝志 目白大学外国語学部教授（日本国際理解教育学会会長）

質疑応答（30分） 《12：15～13：15 昼食》

デモンストレーション インターネットを利用したオーストラリアの学校との交流

オーストラリアセントラルクィーンズランド大学と小中高等学校

13：15～17：15 セッション2 学校における取組み

Part I 13：15～14：40 全体会合【進行：市瀬智紀】

プレゼン4 小学校における国際理解教育とESD-東雲小学校の実践を例に考える-（25分）

- 手島 利夫 東京都江東区立東雲小学校 校長
プレゼン 5 ESD を実現するための国際理解教育の取り組み (25分)
飯島 真 埼玉県越谷市富士見中学校 教諭
プレゼン 6 ESD、ASPnet に加盟して一緒に協同実践をはじめませんか? (25分)
伊井 直比呂 大阪教育大学附属高等学校池田校舎

Part II : 14:40-17:05 分科会:学校における取組み (パラレル・セッション)

- 分科会 1 小学校英語セッション【進行:佐々木ゆり】
分科会 2 異文化理解①セッション【進行:吉田 剛】
分科会 3 異文化理解②セッション【進行:高橋亜紀子】
分科会 4 ESD セッション【進行:小金澤孝昭】
17:15-17:30 分科会報告 各分科会の報告者から報告 各3分

- 17:30-18:00 学校の現状の総括と今後の国際理解教育発展のために
米田 伸次 帝塚山学院大学国際理解教育研究所顧問・前所長

平成 19 年 12 月 9 日 (日)

9:00-12:00 セッション 3 新たな取り組み

- 【進行:齋藤千映美 宮城教育大学環境教育実践研究センター准教授】
プレゼン 7. ESD を視野に入れた世界遺産教育のあり方 (30分)
田淵五十生 奈良教育大学教授
プレゼン 8. 教材開発とその活用 (30分)
柴尾智子 ACCU 教育協力課長
プレゼン 9. 「ずっと地球と生きる」& 「D-プロジェクト」(30分)
寺尾明人 ユネスコ連盟事務局 部長・川上千春 日本ユネスコ協会連盟広報室長
プレゼン 10. ICT の具体的な活用方法 (30分)
小林登志生 メディア教育開発センター研究開発部教授 (日本ユネスコ国内委員会委員)
ASP 参加校の活動紹介と意見交換 (45分)
12:10-12:30 会議総括